

授業科目名	舞台芸術実習D	担当教員	河村 竜也 杉山 至
必修の区分	選択		尾西 教彰 児玉 北斗
単位数	2単位		石井 路子 山内 健司
授業の方法	実習		近藤 のぞみ 木田 真理子
開講年次	3年第3クォーター		田上 豊 深澤 南土実 岡元 ひかる
講義内容	この授業では、3年次までに履修した理論の講義やコミュニケーション系の演習、各種ワークショップ実習の学びをふまえた上で、それらの知識や経験を実際のクリエイションやパフォーマンスの現場で応用ないし検証できる力を培う。振付家・演出家の指示や、既存の作品を参考にしながら動きやシーンを立ち上げ、それらを再構成してプレゼンテーションする。		
到達目標	<p>1. 舞台芸術基礎実習の到達目標を礎にして、他の環境でもそれを応用することができる。</p> <p>2. 日本や海外の舞台作品、舞台芸術に関わる人や事例について、具体的に述べることができる。</p> <p>3. 振付家・演出家に限らず、プロデューサー、舞台監督、舞台技術スタッフ、制作スタッフなどと円滑にコミュニケーションを取ることができる。</p>		
授業計画	<p>舞台芸術実習Dは作家性/スタイルに注目する。</p> <p>臨地実務実習先の実習指導者や担当教員がこれまで関わった欧米やアジアの舞台作品、クリエイション方法やタスク（作業指示）を参考にしながら、授業を進める。（計80時間の実習）</p> <p>01：イントロダクション（授業内容・目的・スケジュール・成績評価方法などについて説明）の後、振付家・演出家（場合によってはドラマトウルグ）を紹介する。</p> <p>02：作品の紹介</p> <p>03：作品を一つ選び、さまざまな立場（実演、衣装、美術、照明、音響）から作品分析をする</p> <p>04：各セクション（実演、衣装、美術、照明、音響）に分かれて、専門家からもらったタスクに取り組む。</p> <p>05：稽古/クリエイション1</p> <p>06：稽古/クリエイション2</p> <p>07：中間発表、フィードバック</p> <p>08：全体の構成を調整する</p> <p>09：稽古/クリエイション3</p> <p>10：公演：準備</p> <p>11：公演：本番</p> <p>12：振り返り</p>		
事前・事後	日頃から気になる作品、デザイン、空間、音楽、動き、言葉を収集すること。		

学習	また毎回の授業内容について、理解を確かなものにするため、「復習」の時間を必ず確保すること。
テキスト	特に指定なし
参考文献	授業内で適宜紹介する。
成績評価の基準	平常点：70%（授業内での姿勢・提案・協働、その過程での掘り下げ、日報の提出、中間発表で評価する） 最終発表/ レポート：30%
履修上の注意履修要件	本実習は舞台芸術に関してある程度の知識があることを前提としているため、舞台芸術基礎実習、（ダンス/演劇）ワークショップ実習等を事前に履修していることが望ましい。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	詳細は説明会で説明する。 定員超過の場合は志望理由等をもとに選考します。